

誰もが、誰かの、
たからもの。

令和6年度
第2回運営委員会

令和7年 2月21日(金)
島根県立少年自然の家

令和6年度 第2回 島根県立少年自然の家運営委員会

日 時 令和7年 2月21日 (金)

13:30～15:30

場 所 少年自然の家 第1研修室

13:30 開 会

- ・ 少年自然の家所長 あいさつ
- ・ 自己紹介 (名簿順に)
- ・ 資料確認
- ・ 日程説明

13:45 議 事

【報告事項】

- 1 令和6年度 取組と課題 資料1
- 2 令和6年度 利用状況及び受け入れ事業の報告 資料2
- 3 令和6年度 主催事業等の報告 資料3
- 4 令和6年度 施設整備・修繕報告 資料4
- 5 令和7年度 施設整備・修繕予定 資料5

【協議事項】

- 1 報告事項を受けて
- 2 その他

【情報提供】

- ・ 令和7年度の主催事業・受け入れ事業の予定 資料6

15:25 閉 会

- ・ 少年自然の家所長あいさつ

令和6年度 第2回運営委員会 出席者名簿 (敬称略)

区分	No.	氏名	ふりがな	所属等	出欠
運 営 委 員 員	1	石山 忍	いしやま しのぶ	和木地区主任児童委員	出席
	2	鍛冶 恵巳子	かじ えみこ	施設協力団体代表	出席
	3	河村 美広	かわむら よしひろ	江津市子ども会連合会会長	欠席
	4	小山 美子	こやま よしこ	松江市立佐太小学校長	欠席
	5	坂本 博美	さかもと ひろみ	のぞみ保育園園長	出席
	6	佐田尾 志おり	さだお しおり	元 島根県立少年自然の家所長	出席
	7	田中 茂秋	たなか しげあき	益田市立高津小学校長	出席
	8	内藤 まり子	ないとう まりこ	出雲市立遙堪小学校長	欠席
	9	南口 修	なんこう おさむ	都野津町づくり協議会事務局長	出席
	10	平田 裕	ひらた ゆたか	江津市立郷田小学校長	出席
	11	堀 康弘	ほり やすひろ	江津市教育委員会教育長 【運営委員長】	欠席
	12	山口 慶子	やまぐち けいこ	公益財団法人しまね海洋館 魚類展示課長	出席
	13	山下 積	やました つもる	江津市立桜江中学校長	出席
少 年 自 然 の 家	14	河本 誠二	かわもと せいじ	所長	
	15	荒木 友子	あらき ともこ	社会教育主事	
	16	土江 美来	つちえ みき	社会教育主事	
	17	安食 徹	あじき とおる	指導主事	
	18	松川 成治	まつかわ じょうじ	社会教育主事	
	19	井田 昭彦	いだ しょうげん	会計年度任用職員	
	20	青砥 智訓	あおと ともりの	主幹 (兼)	
	21	錦織 柊二	にしこおり しゅうじ	主任主事 (兼)	
	22	公益財団法人しまね文化振興財団 少年自然の家管理事務所長			

令和6年度 第2回運営委員会 会場座席表

黒板

会場: 第1研修室

委員長

石山委員

南口委員

鍛冶委員

平田委員

坂本委員

山口委員

佐田尾委員

山下委員

田中委員

傍

聴

席

松川

土江

荒木

河本所長

管理事務所長

青砥

安食

井田

錦織

令和 6 年度 少年自然の家事業の評価と課題

1 受け入れ事業

- 今年度の利用実数は、1 月末現在（統計による数字は以下同じ）において、7,600 人であり、昨年度の同時期と比較してほぼ同程度であった。（68 人増）。全体の研修者数（延べ人数）は、12,917 人であり、昨年と比較して564 人増加した。また、受入れ団体数は251 団体であり、昨年と比較して22 団体減少している。
- 今年度の実績を令和5 年度と比較すると、団体数が減少しているものの、利用の実績は微増しているという状況である。
- 一方で、新型コロナウイルス感染拡大前で影響がほぼなかった年度（令和元年度）と比べると、利用実数は約5,400 人の減である。また、研修者数は約9,200 人、受入れ団体数は85 団体減少している。昨年度は利用が回復傾向であったが、今年度は鈍化傾向にあり、以前のような利用は戻っていないことがうかがえる。

利用実数	令和5 年度と比べ	101%の人数	➡	令和元年度と比べ	59%の人数
------	-----------	---------	---	----------	--------

研修者数（延べ人数）	令和5 年度と比べ	105%の人数	➡	令和元年度と比べ	59%の人数
------------	-----------	---------	---	----------	--------

受入れ団体数	令和5 年度と比べ	92%の団体	➡	令和元年度と比べ	75%の団体
--------	-----------	--------	---	----------	--------

- 学校種別利用実数について、小学校に関しては宿泊研修の団体数68 校で、昨年度同期に比べて3 校減っている。また、令和元年度と比べると4 校の減少であり、小学校に関しては、わずかであるが減少の傾向がうかがえる。入所した数校の代表者に聞き取りを行った結果、宿泊研修実施にあたっては、今後、泊数を増やして利用することは難しいと回答をいただいている。（理由：①保護者の金銭的負担を大きくしないため、②教職員の負担を大きくしないため、③教科の時数を確保するため）
- 県内の小学校の当所での宿泊研修利用については、現在、196 校（隠岐教育事務所管内を含む）のうち、61 校の利用がある。（31.6%）

2 主催事業 ※詳細は、各主催事業報告書（資料3）に記載

- 主催事業については、今年度も
- ① 子どもたちの「生きる力」を育む
 - ② 家族（親子）の絆を深める
 - ③ ボランティア養成を図る
 - ④ 青少年社会教育施設での野外体験活動機会の充実を図る
 - ⑤ 施設の利用拡大を図る
- という、5 つの視点からなる13 の事業を計画した。
- 今年度は、天候の影響により予定を変更したこともあったが、全ての事業を実施することができた。ここでは、①と②について特化して報告する。
- 子どもたちの「生きる力」を育むことをねらいに据えた『子ども対象事業』として、「ジュニア・サマー・キャンプ」、「子ども探検隊」、「かわいい子には旅をさせよう」、「ジュニア・ウインター・キャンプ」を設定した。5 泊6 日の事業「ジュニア・サマー・キャンプ」では途中に各々の思いの相違からスムーズに活動が流れないこ

とも数多くあった。しかし、長期にわたり仲間と過ごすことによって、協力をしあって成し遂げることの大切さに気づいたり、お互いにフォローし合って完成させる大切さに気づいたりしていった。最後の夜のキャンプファイヤーで炎に照らされながら感謝の言葉を伝えあう姿は感動的であった。こういった協働の力で成し遂げることは、これからの時代を強く生きていく力を育むためにも、特に大切にしたい視点であると感じた。

- 家族・親子の交流、家族間の交流をねらいに据えた『親子・家族対象事業』として、「チャレンジ・ザ・サマー」、「森と海のつどい」「わくわくどきどきスプリング」を設定した。

これらの事業は一昨年までコロナ禍のため、家族内での交流が中心であり、昨年度徐々に交流の機会を増やしていった。今年度は、さらに家族間交流が生まれるようにグループでの活動にも重点を置いてきた。「わくわくどきどきスプリング（R5年度）」では子どもが仲良くなるに連れ、保護者同士の会話も弾んだ。入浴後から就寝までの空いた時間に仲良くなった子どもたち、加えて保護者が自主的に“パジャマパーティー”をする姿も見られた。それまでの活動の組み方（プログラムのデザイン）が有効に機能していることを感じた。同時にメディアのない中で親子や家族間で楽しみを創り出しながら過ごすという事業の意義を感じる事ができた。

3 その他（今年度のトピックス）

- Instagramの開設

効果的な広報の一つとしてInstagramを開設した。これは、Instagramが若年層、とくに子育て世代へ情報を届けるために有効であるという特性を活かした広報である。10月25日に初投稿し、フォロワーは2月9日現在133名となっている。今後、定期的（週に1回）に投稿し、情報を発信する予定である。

- 地域との結びつき、新たな関係づくりの創出

地域に根づき愛される施設をめざし、江津市との結びつきをもつ機会をつくった。主催事業では教育委員会と連携し、地域の自然と人材を活かした活動を実施した。協力いただいた地域住民から、「地域の自然の素晴らしさを再認識したので、自分たちも活かしていきたい」という声が聞かれた。また、今年度は、県内教育委員会教育長会、県内若手事務職員会を受け入れ、当所のプログラムを取り入れてもらうことで、施設をPRすることができた。

- 研修の機会の充実

他施設における野外活動安全管理研修を実施した。これは野外アスレチックコースを有する他施設を訪問し、安全管理の様子から当所の安全管理の在り方を見つめなおすために計画した。全職員で見ることにより、安全のための必要備品や職員の対応（言葉かけ等）、今後の指導・支援に役立つことを得ることができた。また、今年度、職員個人の研修の機会を確保するようにした。

- 緊急時の職員のフォロー体制

今年度、6月に施設内の水道が止まるという事態が起きた。水道水を送るポンプが2台同時に故障したことによるものであった。入所団体の受入れの時期であったことから、早急な対応が求められた。飲食、手洗い、トイレ、入浴等の入所者への対応、原因究明・修繕に向けての対応等、総務課を含め全ての職員が役割分担を超えながら対応し、乗り超えることができた。これは、常日頃からの職員間でのフォロー体制によるものであり、引き続きそういった体制を維持していく必要がある。

4 今後の課題

(1) 利用促進

学校の現状は教職員の働き方改革、学習時間の確保、保護者への負担軽減などがあり、宿泊を伴う体験学習にとって逆風を感じることもある。しかし、その中でも当所を利用したい、または、体験活動を進めていきたいという気持ちになるように次のことを進めていく。

- ・ 教育的な価値を確かなものにしていく。(計画段階からの関わりを大切にする)
- ・ 魅力的なプログラム・新規のアクティビティの開発
(就学前の子どもたちへのアプローチ)
- ・ 閑散期の利用促進(他団体との関係づくりとPR、中・高校生の利用促進PR)
- ・ 効果的な広報の工夫
(SNSを活用したタイムリーな広報、チラシ等を使った効果的な広報、少年自然の家の開所50周年記念事業を活かした広報)

(2) 地域を含めた各種団体との関係づくり

江津市(民)の自然の家の認知度、利用度を向上させる必要がある。所外に出て、各種団体との関係をつくっていくことを進めているが、今後、徐々に広げていくことに力を入れていきたい。江津市内や近隣の市町の社会教育施設・学校へ訪問し、具体的な入所につなげることや、連携・協働による事業参加への提案を行う。また、可能な範囲で他団体の事業へ協力できないか検討を行っていく。

(3) 安全管理の徹底

入所者にとってよりよい研修になるためには、安全で安心して、思い切り活動できるような環境を整えていくことが必要である。動植物(クマ、サル、ハチ、マダニ等)、気象状況(熱中症、落雷)について職員で研修を続け、対策を図るとともに、自然体験活動のプロとして正しく利用者に情報提供を行う。特に熱中症対策について重点を置き、さらなる対応策を検討する。

(4) 体験活動の一層の促進

子どもたちが置かれている状況を考えた時、体験活動の不足は加速している。生成AI時代における体験活動の意味について改めて考え、主催事業においては原体験(その後の生き方や考え方に大きな影響を与える体験)を組み入れたプログラムを大切にする必要がある。また、県内の3青少年教育施設が連携を図り、県内のすべての子どもたちの体験活動が一層推進されるように連携を進めていく。

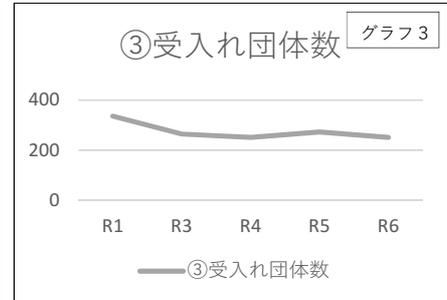
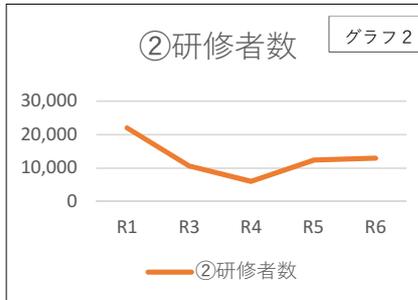
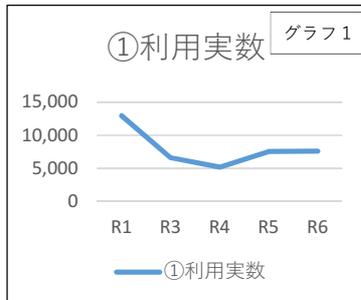
(5) 温かい空気の中でのフォローアップ体制の継続

当所のよき風土の一つに、課や役割を超えながらフォローしていく体制が整っていることがあげられる。この温かい空気が流れる中だからこそ、よりよい教育活動が実践されていると感じる。これは一人の力ではなく、組織の力だと感じる。この空気をチームで保っていけるように、些細なことでも話し合える雰囲気を作り、組織としての力を向上させていく。

過去4年間の利用実数・研修者数・受入れ団体数(1月末) ※以降各年度1月末の数字)

表1

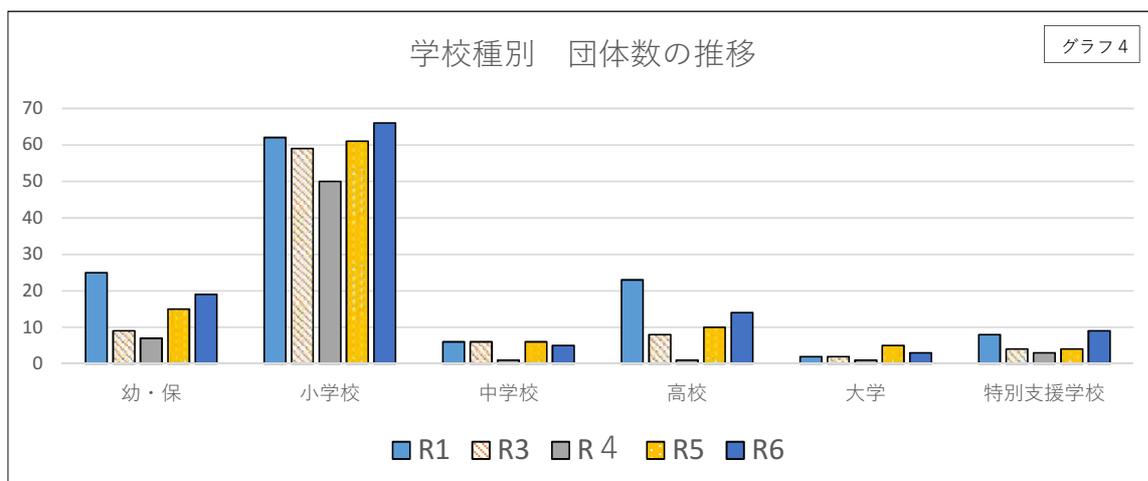
	R1	R3	R4	R5	R6	前年比 (R6/R5)	R1年比 (R6/R1)
①利用実数	12,981	6,611	5,187	7,532	7,600	101%	59%
②研修者数	22,011	10,647	5,992	12,353	12,917	105%	59%
③受入れ団体数	336	265	251	273	251	92%	75%



過去5年間の学校種別団体数(1月末)

表2

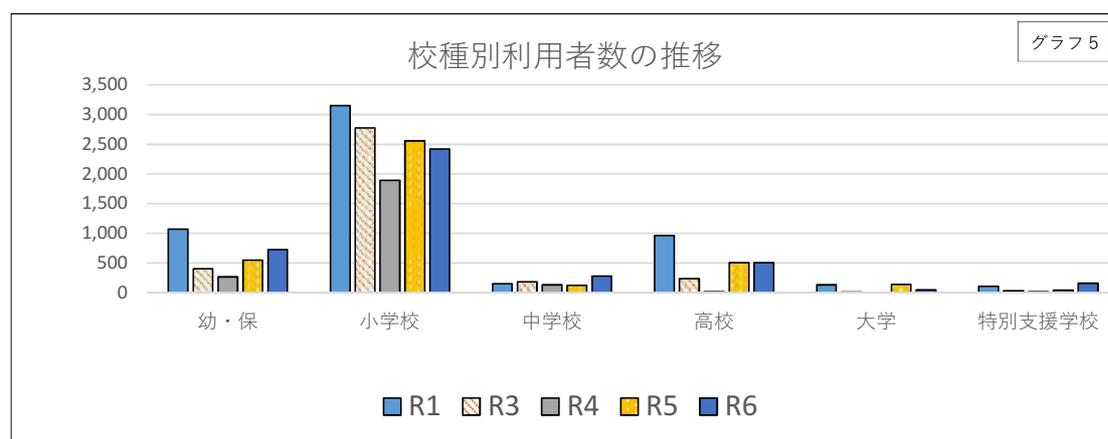
	R1	R3	R4	R5	R6	前年比 (R6/R5)	R1年比 (R6/R1)
幼・保	25	9	7	15	19	127%	76%
小学校	62	59	50	61	66	108%	106%
中学校	6	6	1	6	5	83%	83%
高校	23	8	1	10	14	140%	61%
大学	2	2	1	5	3	60%	150%
特別支援学校	8	4	3	4	9	225%	113%



過去5年間の学校種別利用者数(1月末)

表 3

	R1	R3	R4	R5	R6	前年比 (R6/R5)	R1年比 (R6/R1)
幼・保	1,069	404	266	547	725	133%	68%
小学校	3,154	2,773	1,893	2,556	2,423	95%	77%
中学校	148	182	130	121	281	232%	190%
高校	962	236	14	504	506	100%	53%
大学	133	11	0	141	43	30%	32%
特別支援学校	109	32	13	42	156	371%	143%



令和6年度 第2回運営委員会

資料2

事業報告



島根県立少年自然の家

令和7年2月21日（金）

1

利用状況

1月31日までの比較

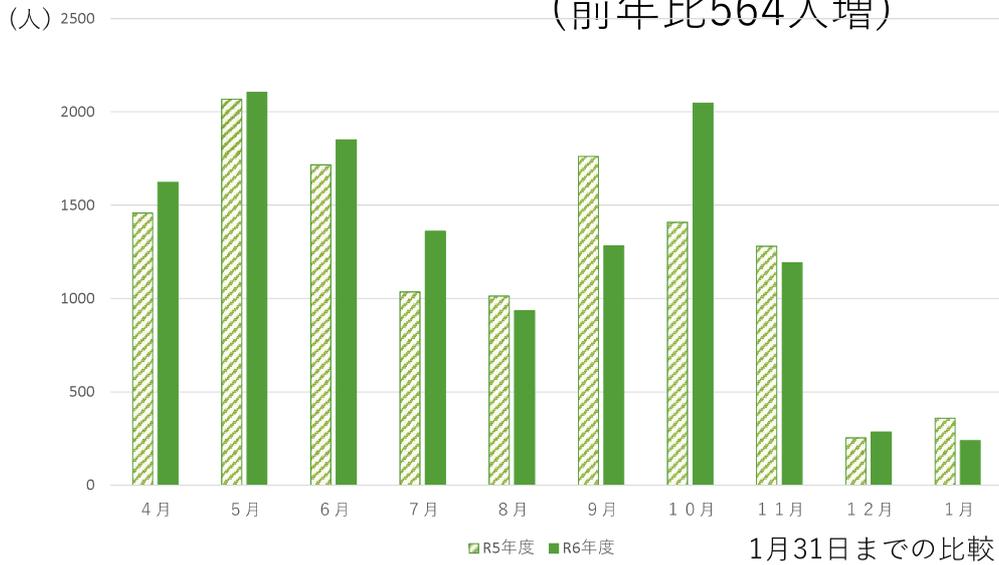
	令和5年度	令和6年度	増減
日帰り実数 (a) (人)	3,463	3,147	▲316
宿泊実数 (b) 〔内 ケビン棟宿泊〕 (人)	4,069 〔125〕	4,453 〔72〕	384 〔▲53〕
利用実数 (a+b) 「日帰り実数+宿泊実数」(人)	7,532	7,600	68
宿泊研修者数 (c) 「宿泊実数×(泊数+1)」 (人)	8,890	9,770	880
研修者数 (a+c) 「日帰り実数+宿泊研修者数」 (人)	12,353	12,917	564

※受入事業、主催事業、出展活動の合計数

2

研修者数 12,917人

(前年比564人増)

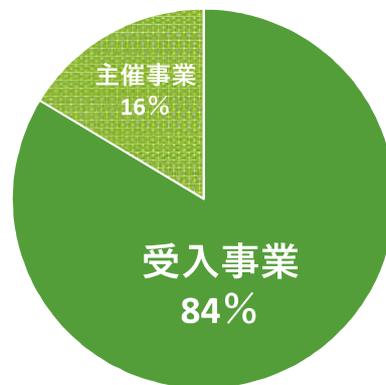


3

事業別利用実数

1月31日までの比較

事業	団体数		利用実数		
	R5	R6	R5	R6	
受入事業	学校	101	116	3,911	4,134
	社会教育	56	49	1,741	1,814
	社会生活	7	5	188	142
	企業	9	15	80	56
	個人	73	48	379	230
	合計	246	233	6,299	6,376
主催事業	26	18	1,229	1,224	
視察・その他	1	0	4	0	
合計	273	251	7,532	7,600	



R6事業別利用実数

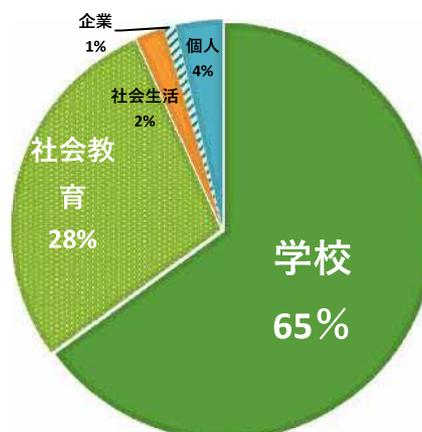
4

I 受入事業

5

受入事業利用実数について 1月31日までの比較

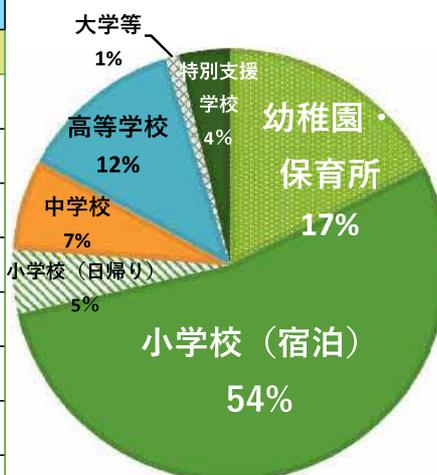
事業	団体数		利用実数		
	R5	R6	R5	R6	
受入事業	学校	101	116	3911	4,134
	社会教育	56	49	1741	1,814
	社会生活	7	5	188	142
	企業	9	15	80	56
	個人	73	48	379	230
	合計	246	233	6,299	6,376



6

学校種別利用実数について 1月31日までの比較

	団体数		利用実数	
	R5	R6	R5	R6
幼稚園・保育所	15	19	547	725
小学校（宿泊）	52	58	2,239	2,225
小学校（日帰り）	9	8	317	198
中学校	6	5	121	281
高等学校	10	14	504	506
大学等	5	3	141	43
特別支援学校	4	9	42	156
各種学校	0	0	0	0
合計	101	116	3,911	4134

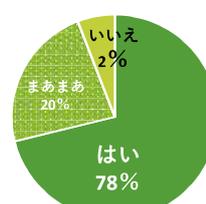
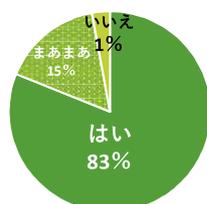


※小学校連合は1団体として集計

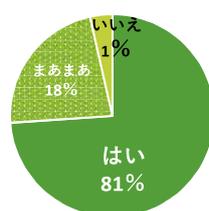
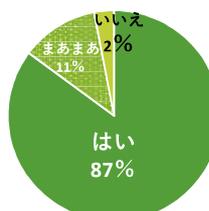
7

児童アンケートについて 1月31日までの集計

1. 自分のめあては達成できたか。
2. 活動に進んで参加できたか。
3. 友達のよいところが発見できたか。



4. 食事はおいしく食べられたか。
5. 職員の話は分かりやすかったか。

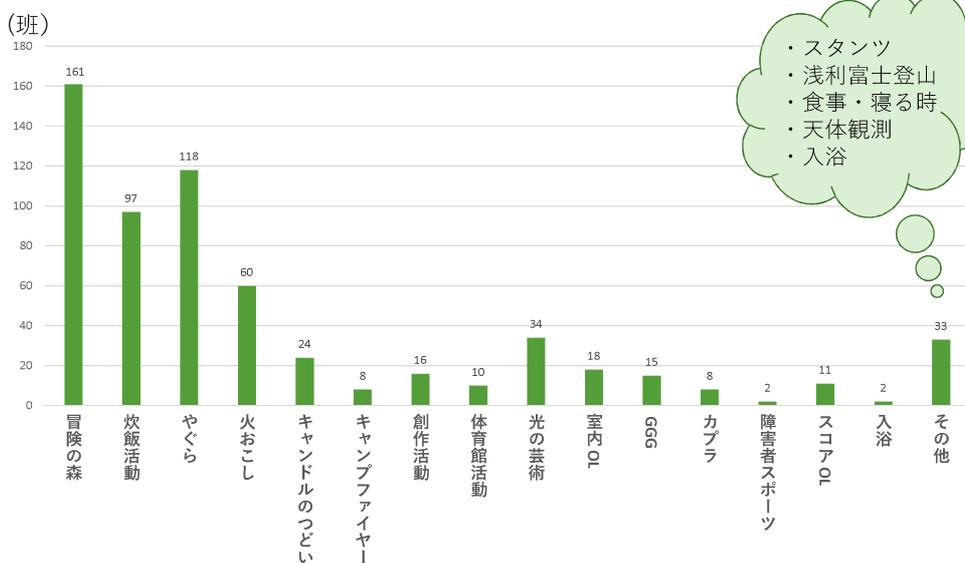


8

児童アンケートについて

1月31日までの集計

6. 心に残っている活動は何ですか。



9

児童アンケートについて

1月31日までの集計

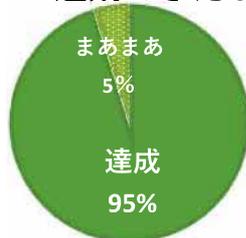
- 班のみんなで一番頑張ったことは協力。協力して楽しく、笑顔で活動できた。
- いろいろなハプニングや大変なことがあったけど、最後まで乗り越えられた。
- 友達のいいところや知らないところを知れてよかったし、自分のいいところも見つけた。
- 宿泊研修をして、前より仲間を思う気持ちが増えたとし、頑張ろうと思う気持ちが増えました。
- 学校ではできないことをして、みんなのいろいろなことが知れて、とてもよかった。また行きたい。
- とても説明が分かりやすく、最高に面白かったし、楽しかったです。
- あともう1泊したいくらい楽しかったです。



10

引率者アンケートについて 1月31日までの集計

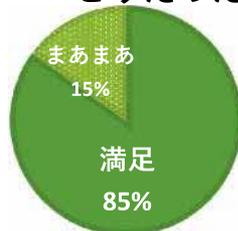
1. 研修におけるねらいを達成できたか。



2. 職員の対応はどうだったか。



3. 食堂の対応はどうだったか。



4. その他

- 研修で仲間の良さを認め合い、励ます姿がたくさん見られた。
- 子どもたちが成長したこと、課題をそれぞれ実感できた。
- 自然の素晴らしさを体験しながら研修できた。
- ★冒険の森で、給水できる場所がいくつかあるとよい
- ★子どもが1名ムカデに刺されてしまったため、害虫対策をしてほしい。

11

一般受入について (小学校・特別支援学校以外)

保育所・中学校・高等学校

1月31日までの比較

親子活動・スポーツ少年団・子ども会等

事業	団体数		利用実数		
	R5	R6	R5	R6	
受入事業	学校	40	41	1,358	1,555
	社会教育	56	49	1,741	1,814
	社会生活	7	5	188	142
	企業	9	15	80	56
	個人	73	48	379	230
	合計	185	158	3,746	3,797

アンケートより

満足度99.2%

- 丁寧に分かりやすく説明いただき、安心して活動できた。
- 1人1人にアドバイスやコメントをしてくださり、子どもたちも喜んでいました。
- △子どもが主な対象の施設のため、高齢者や障がいのある方は使用しにくい場所が多い(段差や移動距離が長い等)

12

令和6年度島根県立少年自然の家主催事業

「利用団体指導者研修会」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 集団宿泊研修の教育的意義、及び内容・方法について理解する。
- ・ 当所での研修活動を効果的に展開するためのプログラム案を作成する。
- ・ 同時入所団体とプログラムの調整を図ることを通して、プログラムの再検討や、宿泊研修への見直しをもつきっかけにする。

2 事業の概要

〈第1回：前期（4／1～8／31）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 4月25日（木） 参加者 33校の各担当者

〈第2回：後期（9／1～3／31）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 7月25日（木） 参加者 34校の各担当者

- 〈内容〉
- （1）所長講話「一生に残る体験活動を」
 - （2）活動プログラム紹介
 - （3）施設見学
 - （4）昼食に合わせ、説明「食堂の使い方について」
 - （5）実習「活動プログラム体験」
 - （6）説明「利用の留意点について」
 - （7）団体間調整



3 事業の特色

宿泊研修を予定している学校団体の研修担当者を対象にした事業である。入所期日に合わせて前期・後期に分けて実施した。施設のプログラム紹介、見学、実習などを体験することで、より効果的な研修計画を立ててもらうことを意図した。研修に参加することによって、児童への事前指導のイメージを膨らませたり、引率教員間での情報共有化を高めたりする効果を期待した。

4 成果

前期は、学校も新学期を迎えてあわただしい時期に開催することになるので、担当される先生が何度目の担当であるのかの情報も把握し、その担当歴に合った内容となるよう工夫した。夏休みの開催となる後期の研修会では、1団体から複数参加される学校も8組あり、この研修の意義が浸透しつつあるのを感じている。何度も経験されている先生には、団体間調整の時だけの参加も認めたり、初めて経験される先生には、細かな疑問点にも応えられるよう、昼食の後で個別の質問タイムを設けたりして、丁寧な対応を心がけた。参加者からは、「初めて『火おこし』体験を行い、とても難しかったが、辛抱強く指導してくださり、当日の活動に向けてのイメージが高まった。」「少人数のグループにお一人ずつ職員さんがついてくださったので、質問もしやすかったです。」などのご意見をいただいた。



「チャレンジ・ザ・サマー」実施報告書

1 ねらい

- ・ 少年自然の家が提供できる活動を通して親子の絆を深め、夏の思い出づくりに寄与する。
- ・ 家族相互の交流を深める。

2 事業の概要

- (1) 期 日 7月20日(土)～21日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家
- (3) 対 象 小学生とその保護者
- (4) 参加者 23家族 55名(小学生27名、保護者28名)
- (5) 日 程 〈プログラム構成〉



1日目 7月20日(土)	2日目 7月21日(日)
10:00～受付 10:30 入所のつどい 11:00 仲良くなるゲーム [6班編成] 	6:00 起床 7:40 朝食(食堂) 9:10 火おこし体験 [1班で2台] 
12:00 昼食(食堂) 13:00 冒険の森アスレチック 16:00 自由活動～虫とり、創作活動 体育館活動 18:00 夕食(食堂) 19:00 サンセットウォッチング(浅利富士) 20:30～入浴・就寝	10:30 班別カレー炊飯[第1炊飯場] 13:30 退所のつどい 14:00 退所 

3 事業の特色

毎年、家族での夏の思い出づくりをテーマにして開催している事業であるが、今年度は、他の家族との交流もサブテーマとした。3～4家族で一つの班を編成し、様々な活動を共に行うことで、普段はなかなか触れることのない自分たち以外の親子の関わりに、触れる場を経験してもらうことにした。そういう場を通して、自らの子育てや親子関係を振り返る機会にしてほしいと考えた。また、宿泊だけでなく、希望者にはケビン泊やテント泊の経験も提供することができた。

4 成果

参加者アンケートから、二つのねらいの達成度については、回答された全家族が「十分達成できた」「だいたい達成できた」を選んでおられた。「ほかのご家族とお話をされましたか?」の問いにも、8割以上の家族が、肯定的な回答をされていた。お風呂や創作活動にも、家族同士が連れ立って行動される姿が見られた。また、回答された全家族が、子どもの良いところが見つかったと答えておられた。「昼の掃き方を教えていなかった、夕日が沈むまで見るだけの余裕もなかった、などいろんな気づきがありました。」「一人ではなかなかキャンプに連れてきてやれないのですが、自然の家の方や一緒に参加した方のおかげで、素敵な体験を子どもにさせてやることができました。」などの感想も寄せていただいた。



「ジュニア・サマー・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

日常では味わえない体験活動プログラムを通して、自然のよさや厳しさを体感したり、仲間と協力し励まし合いながら、困難を乗り越えたりすることで、たくましく生きる力を育む。

2 事業の概要

- | | | |
|---------|-----------------------|---|
| (1) 期 日 | 令和6年8月18日(日)～8月23日(金) | 5泊6日 |
| (2) 対 象 | 小学校5・6年生 | 24名 |
| (3) 内 容 | 1日目(出会い) | 入所のつどい 仲間づくり 安全学習 目標設定 |
| | 2日目(森活動) | やぐらキャンプづくり ソロ炊飯入門 班で夕飯づくり |
| | 3日目(山活動) | ソロ炊飯で朝食づくり 班ごとのミッション 浅利富士探検
竹水鉄砲遊び 班で夕食づくり |
| | 4日目(川活動) | ソロ炊飯で朝食づくり 川で生き物探し 生き物図鑑づくり
班で夕食づくり ※アクアス・江津市教育委員会と連携 |
| | 5日目(滝活動) | ソロ炊飯で朝食づくり 沢登り 滝ウォータースライダー 笹舟
やぐらキャンプ解体 バーベキュー炊飯 キャンプファイヤー |
| | 6日目(最終日) | ふりかえり ストーンアートで発表会 |

3 事業の特色

「この夏の挑戦!きっと何かが見つかる 見つける 自然の中で過ごす6日間」をキャッチフレーズに、夏休みに行う長期キャンプである。この事業における「たくましく生きる力」を「①自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する。②他人と協力し合う。思いやる心。感動する心。③自らの体と心に向き合い健康で過ごす。体力をつける。」ととらえ、この事業を通して子ども達につけたい力としてスタッフで共有し、事業に臨んだ。今年度は、2泊目～4泊目は「どんぐりの森」に児童たちの力でやぐらを作って宿泊し、朝はソロ炊飯、昼は防災食、夜は班で考えたメニューを調理した。江津市の派遣社会教育主事に協力してもらい、4・5日目に地域との連携を図った。



4 成果

「挑戦・協力・愛」を合言葉に、6日間を過ごした。アンケートで、「新しい友達ができ」「自分の成長を感じた」と100%の児童が回答したこと、また「本当の楽しさを知ることができた。」「自分に自信が持てるようになった。」といった感想は、集団宿泊体験かつ自然体験活動の中で困難を乗り越えることの価値の高さを示している。5日目の夜のキャンプファイヤーや最終日の退所のつどいで、感動の涙を流す児童の姿が印象的だった。



「子ども探検隊」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 少年自然の家の教育資源を活用した探検活動を通し、自分や友達のよさを見つける。
- ・ 集団生活やグループ活動をすることで、協力するよさを味わう。

2 事業の概要

(1) 開催日 10月12日(土)～13日(日)

対 象 小学3・4年生

(2) 参加者 22名

(3) 内容

- ① アイスブレイク
- ② 冒険の森
- ③ 光の芸術
- ④ 肝試し
- ⑤ スコアオリエンテーリング



3 事業の特色

「自分の宝物を見つけよう！」というねらいのもと、2日間の宿泊研修を体験した。1・2年生対象の「かわいい子には旅をさせよう！」は親元を離れて宿泊すること自体や個々のチャレンジに価値を見出しているのに対し、3・4年生対象のこの主催事業は、協力するよさを味わったり、勇気が必要な探検を通し、自分や友達のよさを味わったりすることを趣旨に加えている。

今年度は少年自然の家の既存のプログラムを活用し、様々な体験を積む中で、協力することのよさや勇気を出すことの大切さを味わえるように計画した。1日目は、冒険の森、光の芸術、肝試しと盛りだくさんの体験をすることができ、充実感を味わえたようである。2日目のスコアオリエンテーリングは、児童の発達段階に対して難易度が高いプログラムであったが、その分チームで話し合ったり、励ましあったりする局面も多く見られた。

4 成果

今回、ボランティアのイモームズが参加できず、ほとんど少年自然の家のスタッフのみで、事業の運営を行った。ねらいの「自分の宝物を見つけよう！」と「あたりまえの反対言葉はありがとう」について、自分なりに考え、退所のつどいにおいて、子どもたちが全員、自分の言葉で発表できたことは成果であったと感じる。アンケート結果では、子どもたちのほとんどが「楽しかった」、「自分や友達のよさを見つけることができた」と回答した。全体的にゆとりのある計画であったので、それぞれの活動をじっくりと体験し、子どもたちは、各自いろいろと感じたり、考えたりすることができたのではないと思われる。今回の体験を通して得られた気づきや学びを、今後の生活に活かしていくことを期待している。

「オープンデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 広く県民に施設開放をし、県民に周知するとともに、利用促進を図る。
- ・ 利用団体や所と関連のある団体との結びつきをさらに深化させる。

2 事業の概要

- (1) 開催日 10月27日(日) 10:00～16:00
対 象 どなたでも(未成年者は、保護者または成人が同伴)
- (2) 来場者 265名(73組)
- (3) 内容

① 少年自然の家が提供した体験等

- ・ 食堂委託業者(ウオクニ株式会社)による、カレーライス等の販売
- ・ 冒険の森アスレチック体験
- ・ 車いすスポーツ体験
- ・ 創作活動(ぶんぶんゴマ)
- ・ 土鍋ご飯体験

② 関連団体によるブース出展

- ・ いわみ福祉会～食品、コーヒーの販売
- ・ しまね海洋館アクアス～友情の池の生き物観察会
- ・ 国立三瓶青少年交流の家～ディスゲッターなどの的当てゲーム体験
- ・ 島根県企業局～「企業局」って何だろう?と銘打って業務内容の紹介
- ・ しまね自然子育てネットワーク～どんぐりの谷でプレイパーク、焚き火体験
- ・ 島根県キャンプ協会～薪割りや焚き火台などのミニキャンプ体験の提供とテントの展示
- ・ 西部社会教育研修センター～親学の一環として「ほめばっちゃん」体験の提供
- ・ いわみ芸術劇場派遣事業～どんぐりの森での演奏会開催 11:00と13:30の2回



3 事業の特色

主催事業の中では、広く県民に周知し、施設を開放する目的を持った事業の一つであり、来場人数も最も多い。周知の方法としては、9月にチラシ配布を行い、LINE公式アカウント登録者には、メッセージを送信した。また、山陰中央新報や江津市広報にも情報掲載をお願いした。さらに県庁を通して、報道機関にも情報提供を行った。今年度も当所を利用されたことのある団体に働きかけて、ブースの出展を募った。その結果、昨年度より3つ増え、8団体に出演していただくことができた。新たに、国立三瓶青少年交流の家としまね海洋館アクアスの参加を得た。また、昨年度職員研修として説明を受けた島根県企業局(西部事務所が近隣に所在)にも働きかけ、事業内容を紹介してもらうブースを設けることができ、全体的に昨年度に増して、バラエティーに富んだ内容となった。

4 成果

当日は、雨の心配もある曇天ではあったが、昨年度より14名多い来場があった。当所が運営しているボランティアクラブの「イモームズ」からも中学生1名、大学生1名の参加があり、創作活動の支援を熱心に行っていた。事業運営や連絡を通して関係団体との繋がりもより密になった。

「エンジョイ・アウトドア」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

自然の中で思い切り体を動かしたり、体験活動プログラムを活用したりすることを通して、子どもたちの積極的態度の醸成や、自己肯定感の向上を図る。

2 事業の概要

(1) 開催日 11月1日(金) 9:50～活動終了後各団体退所

対象 浜田教育事務所管内教育委員会教育支援センター等
児童・生徒及び引率者

(教育支援センターに通っていない児童・生徒も参加可)

参加者 児童・生徒 19名 引率者 21名 計40名

内訳	大田市教育委員会「あすなろ教室」児童1名 生徒6名 引率者4名 計11名			
	江津市教育委員会「あおぞら学園」児童3名 生徒1名 引率者5名 計9名			
	浜田市教育委員会「やまびこ学級」児童3名 生徒2名 引率者9名 計14名			
	邑南町教育委員会「たけのこ学級」児童1名 生徒2名 引率者3名 計6名			

内容 ①選択野外炊飯活動 バーベキュー(かまどでご飯炊き)・カレーうどん

②選択活動 ※当日、希望の活動ができるよう柔軟に対応

晴天の場合：冒険の森 スコア0L グリーン0L

雨天の場合：室内0L 体育館活動 カプラ 火おこし

3 事業の特色

「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の一つとして、本施設の主催事業としての実施3年目である。11月1日には年に1度、浜田教育事務所管内の教育センターに通う児童・生徒を中心として、複数団体を集めた事業を行った。野外炊飯活動後に選択活動を行った。

また、昨年度から「年1回の場合ではなく、各団体の希望により、複数回体験活動ができるようなシステムの構築をめざす。」こととし、「いつでもエンジョイ・アウトドア」という受け入れ事業としても対応している。この事業は対象を「放課後等デイサービス、児童養護施設、児童相談所」に通う子どもたちに広げ、より多くの子どもたちに野外体験活動の機会を設けるよう努めている。



4 成果

今年度は、邑南町「たけのこ学級」が新しく加わって参加された。活動後の子どもたちのアンケートには、「普段話せなかった友達とも話せて楽しかった。」

「みんなで協力してごはんを作るのが楽しかった。」という人と関わる喜びを感じている意見があった。引率者からは、「自分たちで考え、協力し楽しみながら活動している姿があった。」「楽しく主体的に活動している姿を見て、体験することの良さと大切さを改めて感じた。」という児童・生徒のいきいきと活動する姿から体験の価値を感じている意見があった。どの団体からも来年度も参加したいという強い希望をいただいた。



「森と海のつどい」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 「森の豊かさは海の豊かさ」をテーマに、森と海のつながりを親子体験活動を通し、感じ取り学ぶ。
- ・ 1泊2日の活動を通して家族のつながりを深める。



2 事業の概要

- (1) 期 日 11月2日(土)～3日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家、しまね海洋館アクアス
- (3) 共 催 しまね海洋館「アクアス」
協 力 島根県立三瓶自然館「サヒメル」
- (4) 対 象 小学校 4・5・6年生とその保護者
- (5) 参加者 6家族 18名(小学生9名、保護者9名)
- (6) 日 程 : 〈プログラム構成〉

1日目 11月2日(土)	2日目 11月3日(日)
9:30 ～ 受付 10:00 入所オリエンテーション アイスブレーキング etc. 12:00 昼食(食堂) 13:00 森の散策～森の豊かさを感じよう～ 三瓶自然館「サヒメル」研究員さんと一緒に ～ 体験活動や森のお話 ～  19:00 カプラ 21:00 ～ 入浴・就寝	6:00 起床 7:00 朝食(食堂) アクアスへ移動 10:00 アクアス 探索、～バックヤード見学～ ～ 人と海とのつながり ～ 昼食(弁当) 12:30 森と海の2日間をふりかえって 解散: 終了13:00 アクアス自由見学

3 事業の特色

昨年度に続き、「森の豊かさが海を育てていること」を、感じ取る活動の流れを、サヒメル、アクアススタッフと共同開発したプログラムで実施した。家族同士の出会いの場から森へ出かけ、森の多様性から見えてくる豊かさを感じ取り、施設周辺にみられる鉄分が海へと注がれていく、そのストーリーを、自作シールをもってアクアスの水槽へとつないだ。そして、海へ出かけ潮だまりに暮らす生きものから、その豊かさに気づき、学んでいくプログラム構成としたが、悪天候のため実際には磯での活動はできなかった。

4 成果

「悪天候でしたが、それに応じたプログラムを用意してくださり、ありがとうございました。雨や風があっても、そんな中、森に入ることを子どもは楽しんでいただいているように思います。」「雨や荒波のため、予定通りの活動ができず残念でした。でもこれも自然にはかなわない、そしてその自然を大切にともに生活していくことの大切さとも結びつきました。」等。(参加者の感想から)

親子による体験活動を通し、森と海の豊かさのつながりについて学び、家族のつながりも深まっていったように思う。



「ジュニア・ウインター・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・初対面の相手と仲間づくりをする中で、自分の良さにも気づく。
- ・木炭のでき方や性質に触れ、冬の暮らしの中で生かす。

2 事業の概要

- (1) 期 日 12月26日(木)～27日(金) 1泊2日
 (2) 会 場 島根県立少年自然の家
 (3) 対 象 小学校5・6年生 21名(募集は24名)
 (4) 日 程



1日目 12月26日(木)	2日目 12月27日(金)
9:20～ 受付	6:00 起床
9:50 入所のつどい	6:30 朝のつどい・早朝冒険の森(後半)
10:30 仲良くなるゲーム	7:40 朝食(食堂)
11:30 はじめの受けとめ	9:00 炭火でちゃんぼ餅づくり
12:00 昼食(食堂)、荷物移動	12:00 昼食(食堂)
13:10 冒険の森(前半)	13:00 終わりの受けとめ
14:30 木炭の活動(木炭づくり・竹炭づくり・ ふかし芋づくり・ピザづくり)	木炭袋のデザインを考えよう
19:00 木炭についてもっと知ろう ～林和裕さんの話～	14:30 退所のつどい
20:00 焚き火を囲んで	15:00 退所
20:30 入浴・自由交流	
22:00 就寝(宿泊棟泊)	



3 事業の特色

現在は、生活の中でほとんど使われなくなったが、「木炭」について学び、それを活用体験することを通して「木炭のよさ」について気づくことをねらいとした。また、それと並行して「自分自身のよさ」についても気づく機会とした。それぞれ、「はじめの受けとめ」と「終わりの受けとめ」の時間を設け、2日間の体験でどういった変化があったかを自分で気づけるようにした。また、「花炭づくり」「竹炭づくり」「石臼を回す体験」「ちゃんぼ餅(鹿児島県の郷土料理)づくり」などの新たな体験プログラムの開発にも努めた。地元(大田市井田)で木炭づくりに挑んでおられる林和裕さんに、木炭について話をいただいた。さらに、林さんが木炭を売り出すときに使う木炭袋のパッケージデザインを子どもたちが考えるという時間も設けた。



4 成果

テーマを「木炭」に絞ったことで、子どもたちの思考が整理され、2日間の活動がスムーズに流れたと思われる。事後のアンケートからも活動の楽しさについても、仲間との出会いについても満足している様子が伺えた。炭火を囲んで餅を焼きながら、お互いの思いを語る場面からは、2日間で密な信頼関係を築けたことが感じられた。ヘッドライトをつけて、まだ夜が明けていない中での「冒険の森」も非日常の体験として価値があった。

「かわいい子には旅をさせよう！」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・物語に浸りながら自然の中で思いきり活動し、自然に親しむ心や豊かな情操を育む。
- ・保護者のもとを離れて宿泊体験活動をすることで、自主・自立の精神を養う。

2 事業の概要

(1) 開催日 1回目 11月16日(土)～17日(日)

2回目 12月7日(土)～8日(日)

対象 小学1・2年生

(2) 参加者 各回20名(合計40名)

(3) 内容

- ① アイスブレイク
- ② 材料探しの旅・「ぐりとぐら」読み聞かせ・「ぐりとぐら」のカステラづくり
- ③ カレーうどん炊飯
- ④ 寝る前・朝・退所前の読み聞かせ(協力者・学生ボランティアスタッフ・職員)
- ⑤ お掃除タイム
- ⑥ 冒険の森探検
- ⑦ 葉っぱでスタンプ絵はがきづくり



3 事業の特色

当所の主催事業の中でも、保護者の関心が高く応募人数が多いのが、この「かわいい子には旅をさせよう！」である。小学1・2年生の子どもたちにとって、親元を離れ初めて出会う人たちと一緒に活動したり宿泊したりすることは、まさに大冒険となる。そこで、子どもたちが登場人物に自分自身を投影したり、物語の世界に没入したりして、2日間を頑張りきることができるように、絵本を軸に体験活動を構成した。また、本事業を通して「1人でもできた！」と自信をつけ、日常生活に戻ってもその自信が子どもたちを支えてくれるものとなるように意識し、企画・運営を行った。カレーうどん炊飯や布団敷き、掃除等身の回りのことは全て自分で行うよう見守り、その場で価値づけをすることを大切にして、子どもたちと関わった。様々な活動に挑戦し、乗り越えられたことを称え、「できるよ缶バッチ」や旅の修了証を渡したり、作ったものをみんなで味わったりして、喜びを分かち合った。

4 成果

退所の際には、2日間でよい人間関係が築けた様子が見られた。子どもたちが他の子どもやボランティアの学生、職員と名残惜しそうにお別れする様子が印象的だった。

事後の保護者アンケートでは、「大変自信をつけて帰ってきてくれました。ひとりで頑張れた！という自信がついたこと、なかなか普段できない経験をさせていただいたこと、本当に感謝です。」「チャレンジしたその先の喜びや楽しさを実感していました。」「帰ってすぐ楽しかったと話してくれました。またぜひ参加したいです。」等の言葉をいただいた。安心して預けられると感じていただけたこと、親子で満足していただけたことがうかがえ、体験活動の成果があったと言える。

「わくわくどきどきスプリング」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 自然体験活動、宿泊体験活動による親子の絆づくりの場を提供する。
- ・ 福祉部局と連携し、県の施策の情報提供の場とする。

2 事業の概要 【予定】

- (1) 開催日 3月8日(土)～9日(日)
- (2) 参加者 島根県内ひとり親家庭の親子 20組
(子どもは安全面を考慮して年中～小学6年生、中学生)
- (3) 連携機関 県青少年家庭課 ひとり親支援係
- (4) 内容
 - ① 仲良くなろう
 - ② 「アイスブレイク」
 - ③ 親：ホットひとときおしゃべりタイム
子：「家族のためにできること」
「みんなで遊ぼう！」
 - ④ 協力して乗り越えよう「冒険の森」
 - ⑤ 光を囲んで「火おこし&キャンドルのつどい」
 - ⑥ みんなでつくろう「ピザ炊飯」
 - ⑦ 親子で思いを贈り合おう「創作活動」



3 事業の特色

「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の一つとして、ひとり親家庭の親子対象とした事業で、今年度で3回目となる。県の青少年家庭課ひとり親支援係に事前の広報や当日の情報提供の協力を得る。

プログラムには、親子で楽しめる体験活動だけではなく、親同士の対話やつながりづくりを目的としたワークショップ「ホットひとときおしゃべりタイム」を設ける。

4 成果(R5年度)

今年度は、幼稚園教諭経験者の方に支援者として協力していただき、親と離れて活動する際に的確なサポートを得て、親は安心して活動に参加することができた。「弟を見ていただいたので、娘との会話がいつもより充実していたように思います。お手伝いなど普段しないことばかりでしたが、娘が率先してくれるのが印象的でした。」「ほかの子ども達と協力し合うところや、子どもの友達への関わり方を見ることができよかった。」といった感想もよせられた。ゆったりとした時間の中で行った炊飯活動やその他の活動の中で、子ども達の自主性や成長に改めて気づくこともできたようであり、事業の目的にせまることができたのではないかと考える。今年度も「ホットひとときおしゃべりタイム」の後の県青少年家庭課からの情報提供には、興味深く耳を傾け、質問をする方もおられたので、来年度以降も連携して事業を行っていきたい。名前を呼び合ったりおしゃべりはずませたりと子ども同士、親同士、家族同士のつながりも深まったことが何よりの成果であった。

「ボランティアスタッフ養成講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ ボランティア活動に興味のある小中学生を対象に、ボランティアの意欲やスキルを高めるとともに、参加者どうしのつながりを深める。
- ・ 「みんなが 安心・安全 楽しい」について考えるきっかけとする。



2 事業の概要

- (1) 開催日 2月8日(土)～9日(日)
- (2) 対象 小学校5年～中学校2年生
(かつての主催事業に参加した児童・生徒に案内し、その後追加募集を行った。)
- (3) 参加者 17名(小学生16名、中学生1名)

(4) 日程	1日目(2月8日:土曜日)	2日目(2月9日:日曜日)
	10:00 入所のつどい	7:00 朝のつどい
	10:30 仲間づくり	9:00 冬の浅利富士に登ろう!
	13:00 そもそもボランティアって…?	13:00 2日間の振り返り・これからの自分について
	14:00 先輩イモームズから学ぼう!	13:30 保護者の方へイモームズって?-
	15:00 車いすスポーツ体験をしてみよう!	14:00 発表会
	17:00 おいしいうどんを作ろう!	14:30 退所のつどい



3 事業の特色

本事業は、当所の主催事業に過去に参加した児童・生徒を中心に募集をする事業である。参加者の多くは、これまでの主催事業で少年自然の家ボランティアスタッフ「イモームズ」の働きを一番近くで見えており、「自分もイモームズのようにになりたい!」と憧れを抱き参加する子どもたちである。ボランティアとはどのようなものかを知り、自分自身が今後どのように関わっていきたいのか考えることを通して、「みんなが安心・安全で楽しい」ということについて考えるきっかけになるように、活動を構成していった。はじめに、ボランティアとはどのようなものか理解を深め、自分自身について見つめるための時間を設けた。ボランティアという概念についてインプットをした後、ボランティア活動の実際について、先輩イモームズである県立大学の学生から話を聞き、質問する時間を設けた。次に、車いすバスケットボールをされている方を招き、「みんなが安心・安全で楽しい」を体感するために、車いすスポーツの体験をした。さらにそれを活かしてうどん作りをしたり、浅利富士登山をしたりするなど、「自分がイモームズになったら」という視点で活動できるように事業をすすめていった。

4 成果

事後アンケートでは、参加者全員が「自分もボランティア活動に参加してみたい」と回答していた。本事業で大切にしていた、「みんなが安心・安全で楽しく過ごすために」何ができるのかということについて、日常生活に戻っても考え続け、日々の生活に活かしてほしいと願っている。

「わくわく外遊びデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

どんぐりの谷や冒険の森、体育館等を開放し、自然体験や体力向上の機会を提供するとともに、広く施設の利用促進を図る。

2 事業の概要

- (1) 開催日 毎月1回（日曜日）日帰りで開催。10時～15時30分
- (2) 対象 誰でも参加可能
- (3) 内容 どんぐりの谷遊び、ソロ炊飯（2回）、冒険の森、体育館活動、月替わりのわくわく企画
- (4) 周知方法：チラシ配布（前半と後半に分けて2回）。HPやLINE公式アカウントも活用。
- (5) 参加人数



開催日	参加人数	イベント	参加者の区分
4月21日	121	山菜てんぷら	・成人 46% ・小学生 32% ・幼児 21% ・中高校生 1% 12月まで
5月26日	128	ミニ・キャンプ体験	
6月30日	67	草花あそび	
7月28日	74	水でっぼう作り	
8月 別の主催事業開催のため開催なし			
9月29日	78	森の忍者探し	<u>参加者の住所</u> (割合の多いもの) ・浜田市 42% ・江津市 30% ・出雲市 9% ・大田市 8% 12月まで
10月27日	—	オープンデーとして開催 —	
11月24日	120	キャンプ飯に挑戦!	
12月15日	11	凧づくり	
1月26日	—	たき火で焼いも	
2月23日	—	竹ごはんを炊こう	
3月23日	—	森の中でかくれんぼ	

3 事業の特色

本所の主催事業の中では、数少ない毎月開催で自由参加の事業である。どんぐりの谷では、ブランコ、そり遊び、ネット登り、弓矢、ハンモック等の手作り遊具を設置し、スタッフが安全を見守る中で、参加者は思い思いに遊ぶことができる。また、土鍋を使った炊飯活動を1日2回実施し、親子で楽しむ機会を提供している。月ごとのイベント、体育館無料開放、冒険の森も楽しむことができる。



4 成果

未就学児や小学校低学年を中心に、親子で過ごす休日の憩いの場となっている。来場者は、東部は松江市、西部は津和野町、また隣県の広島県にもわたり、多くの人に広がりつつある事業である。

また、来場者にはリピーターも多く、毎月来られる家族もある。「今月の月イベントを楽しみに来ました。」という声も多数いただく。施設遊具や活動を通して、家族の絆を深めたり、子どもの成長を感じたり、喜びをともにしたりする家族の場ともなっている。



「その他の活動」

1 地域の体験活動支援事業

(1) 趣旨

島根の教育資源を生かした体験活動の普及啓発を図る。

(2) 今年度の取組

日にち	依頼者	支援内容	支援した場所
6月17日	邑南町教育委員会	安心安全を担保とした公民館活動及び体験活動の企画立案の指導 参加者：公民館職員及び活動協力者 3名派遣	軍原キャンプ場 阿須那公民館
7月2日	津和野町教育委員会	体験活動における安全管理研修と子どもとのかかわり方の指導 参加者：公民館職員、放課後児童クラブスタッフ 2名派遣	津和野町役場
8月2日	益田市教育委員会	体験活動や普段の活動における安全管理研修と子どもとのかかわり方の指導 参加者：放課後子ども教室スタッフ 1名派遣	市民学習センター
8月6日	美郷町教育委員会	体験活動における安全管理についての指導 参加者：公民館職員、社会教育スタッフ 2名派遣	君谷公民館
9月4日	社会福祉法人 おおなん福祉会	安全管理を視点とした活動の企画立案の指導 参加者：はあもにいほうす建物内の職員 1名派遣	はあもにいほうす
9月19日	邑南町役場 医療福祉政策課	放課後児童クラブにおけるリスク管理 参加者：放課後児童クラブ支援員、医療福祉課職員 1名派遣	元気館
10月22日	邑南町市木地区 社会福祉協議会	年間行事や体験活動におけるリスクマネジメントの指導 参加者：地域支えあい会議メンバー 1名派遣	市木公民館 カントリーホール

2 出前研修

小学校や児童クラブ、まちづくりセンターに依頼され、創作活動、グループワークゲーム、レクリエーション、テント設営等の研修を計6回行った。

3 島根県三青少年教育施設連絡協議会（主催 国立三瓶青少年交流の家）

日時：令和7年1月13日（月）～1月14日（火）場所：島根県立青少年の家
内容：情報共有・グループワーク・トレーニング研修等

4 広報活動

(1) LINE 登録者数 1, 116人（令和7年1月末日現在）

（令和3年10月3日開始、昨年同時期より300名以上増）

(2) インスタグラムを令和6年10月25日より開始。現在フォロワー数115人。

（令和7年1月末日現在）

令和 6 年度施設設備・修繕報告

令和 7 年 2 月 1 0 日現在

1 管理・宿泊棟

- ・【修繕】管理研修棟 外壁補修
- ・【修繕】渡り廊下木部手摺塗替え工事（※）

2 野外施設

- ・【修繕】冒険の森コース木製遊具修繕（金物交換など）（※）

3 設備

- ・【修繕】火災報知器更新・修繕工事（写真 1）
- ・【更新】消火器（8 本）、消防栓ホース（2 本）更新
- ・【修繕】Wi-Fi ネットワーク修繕
- ・【修繕】管理研修棟 電話設備主装置用バッテリー取替
- ・【更新】管理研修棟 ガス遮断弁更新
- ・【更新】食堂棟厨房 ガス警報器交換
- ・【更新】食堂棟厨房 ガス給湯器更新
- ・【修繕】食堂棟食堂 空調機修繕
- ・【更新】食堂棟 電力管理用計器取替工事
- ・【更新】創作棟創作室 エアコン更新（写真 2）
- ・【修繕】宿泊棟 空調集中管理システム修繕
- ・【修繕】宿泊棟（金星棟）2 1 号空調機修理
- ・【修繕】宿泊棟 PoE ハブ取替
- ・【修繕】第 1 炊飯場 プロパン庫建具改修（※）
- ・【修繕】第 2 炊飯場 漏水補修
- ・【修繕】給水ポンプ、揚水配管布設替、1 号フート弁取替修繕
- ・【修繕】合併処理浄化槽 調整ポンプ No. 2 交換
- ・その他軽微な修繕



写真 1



写真 2

4 備品

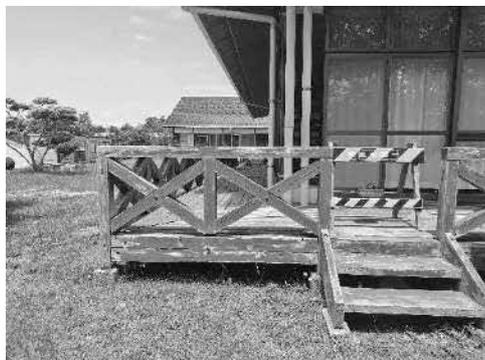
- ・【更新】食堂棟厨房 消毒保管庫（※）
- ・【更新】創作棟 冷水器
- ・【修繕】食堂棟厨房 省スペース洗浄機修理

※については、現在準備中

令和 7 年度施設設備・修繕予定

1 管理・宿泊棟関係

- ・【工事】ウッドデッキ撤去工事（長寿命化工事） ※R 7～8



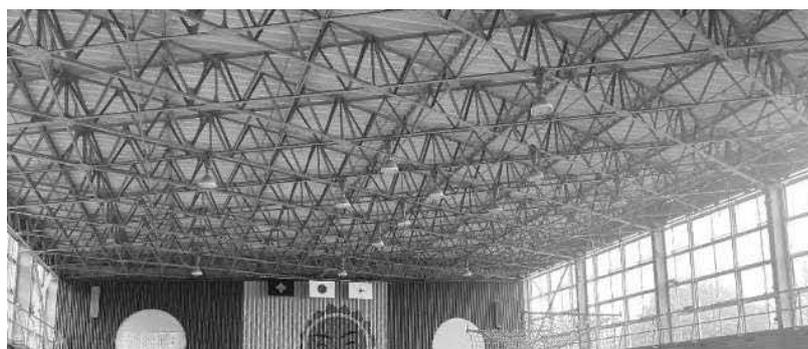
2 野外施設

- ・【工事】冒険の森木製遊具更新・改修工事
「大木での危機」 撤去及び新たな遊具を設置
「出雲の国やしろ」 手すり設置
- ・【工事】活動センター屋根修繕工事（長寿命化工事） ※R 7～8



3 設備

- ・【工事】体育館の天井照明落下防止対策・LED化工事
※ 体育館での工事に伴い、令和 8 年 1 月 1 日～2 月 28 日（予定）は
体育館の利用を休止
- ・【設計】館内照明のLED化工事



令和7年度 実施予定主催事業概要一覧

島根県立少年自然の家

No.	事業名	予定期日	対象	定員	内容
1	利用団体指導者研修会 (前期)	4/24(木)	4月～8月31日入所予定 団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
2	第1回運営委員会	6/27(金)	運営委員13名	-	今年度事業計画、経営方針等協議
3	チャレンジ・ザ・サマー	7/19(土)～20(日)	小学生とその保護者	20組	家族の交流を深めるための夏のお手軽キャンプ(ケビン棟も利用)
4	利用団体指導者研修会 (後期)	7/24(木)	9月1日～3月31日入所 予定団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
5	ジュニア・サマー・ キャンプ	8/20(水)～24(日)	小学5・6年生	24名	非日常体験での気づきをもとにした新たな自分の発見・追求、人間関係づくりをめざした長期宿泊体験活動
6	子ども探検隊	10/11(土)～12(日)	小学3・4年生	24名	探検的要素を盛り込んだ自然体験活動
7	オープンデー 50周年記念	10/26(日)	誰でも(高校生以下は 保護者同伴)	-	施設開放による体験活動(野外活動、創作活動、各団体・個人ブース)
8	エンジョイ!アウトドア	10/31(金)	西部地区教育支援センター 他	-	炊飯や冒険の森を楽しむ野外体験活動
9	森と海のつどい	11/1(土)～2(日)	小学4～6年生と その保護者	12組	自然の家とアクアスでの体験活動
10	かわいい子には旅をさせよう!	①11/22(土)～23(日) ②12/6(土)～7(日)	小学1・2年生	40名 (各回 20名)	自主・自立の精神を養うための自然遊びや集団宿泊体験活動
11	ジュニア・ウインター・ キャンプ	12/26(金)～27(土)	小学5・6年生	24名	人間関係能力を育むため、厳寒期における短期集団宿泊体験活動
12	ボランティアスタッフ 養成講座	2/7(土)～8(日)	小学5・6年生 中学1・2年生 (過去主催事業参加者)	30名	ボランティアの意欲やスキルを高める体験活動
13	第2回運営委員会	2/20(金)	運営委員13名	-	今年度事業報告、施設整備・修繕報告、今年度の課題協議
14	わくわくどきどきスプリング	3/7(土)～8(日)	ひとり親家庭	20家族	自然体験、宿泊体験活動による親子の絆づくり
15	わくわく外遊びデー	原則毎月1回開催 (日曜日) ※8月、10月は除く	誰でも(高校生以下は 保護者同伴)	-	施設を開放し、外遊びや自然遊びを楽しむ家族の体験活動

令和7年度入所予定（団体分類別）

令和7年2月7日現在

入所月 団体分類		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
		学 校	幼稚園・ 保育所		2	1					1			
小学校			9	14	1		8	16	5	2				55
中学校								1						1
高等学校	2		1	1	1		1	1						7
大学等														0
特別支援 学校			1	1				3	3	1				9
各種学校			1											1
小計	2		14	17	2	0	12	21	7	2	0	0	0	77
社会教育	1	2	1	2	1		1	2	2	1	2		15	
社会生活		1						1					2	
企業													0	
個人	1												1	
視察													0	
計	2	3	1	2	1	0	1	3	2	1	2	0	95	

※月をまたいでの入所は前月にカウント